

＼ 鎮火までの最短距離をめざすなら ／

消防団員が考案した
消防団のためのICTソリューションアプリ
→ **スピーディーな消火活動のサポートを**

消防団専用 防災アシストアプリ

S.A.F.E.
SYOUBOU. ASSIST. FIRE. EMERGENCY.

特許取得 火災情報システム 特許第6675723号

情報整備局 代表 和田晃司



Google Play
で手に入れよう

App Store
からダウンロード

プロフィール

和田 晃司 わだ こうじ

情報整備局 代表

1983年 福島県須賀川市出身。稲作農家。
元消防団員（2008-2019）

2015年4月 情報整備局創業

2018年 消防団活動の経験から

「S.A.F.E」(セーフ)をリリースする。

2021年 福島県内で10市町村で本契約での運用。

【受賞歴】

新しい東北復興ビジネスコンテスト2019優秀賞、
ICT地域活性化大賞2020大賞/総務大臣賞、等。



消防団は地域防災の要

①全国約1,700の自治体に設置

その地域に居住または、勤務している 人員で
構成される消防機関である。

②全国で約80万人(消防署員の約5倍)

平均500人 江戸時代に消防団の前身が発足。

③地震、火災、水害、搜索、啓発等の活動を行う。

地域にとって欠かせない組織。

平成25年12月、議員立法により「消防団を中核とした地域防災力の
充実強化に関する法律」(平成25年法律第110号)が成立。

今後ますます消防団の重要性が高まる社会的背景がある。



地域社会に根ざした人材が多い消防団 現代の消防団の抱える社会的背景とは

消防団員数の減少

53年間で約63%に減少
昭和40年130万人
平成30年84万人

被雇用者の増加 日中地元に着籍して いる団員の減少

被雇用者率は
26.5%から73.6%に

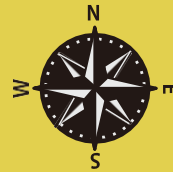
さまざまな不安を抱える消防団

低下傾向にある組織力。火災発生時において
仕組みを効率化する必要があるのでは？

「地域防災の要 消防団」その活動経験から感じた 迅速な活動のために必要な情報とは



団員全員に
向けた素早い
火災の通知



火災現場と
水利位置情報



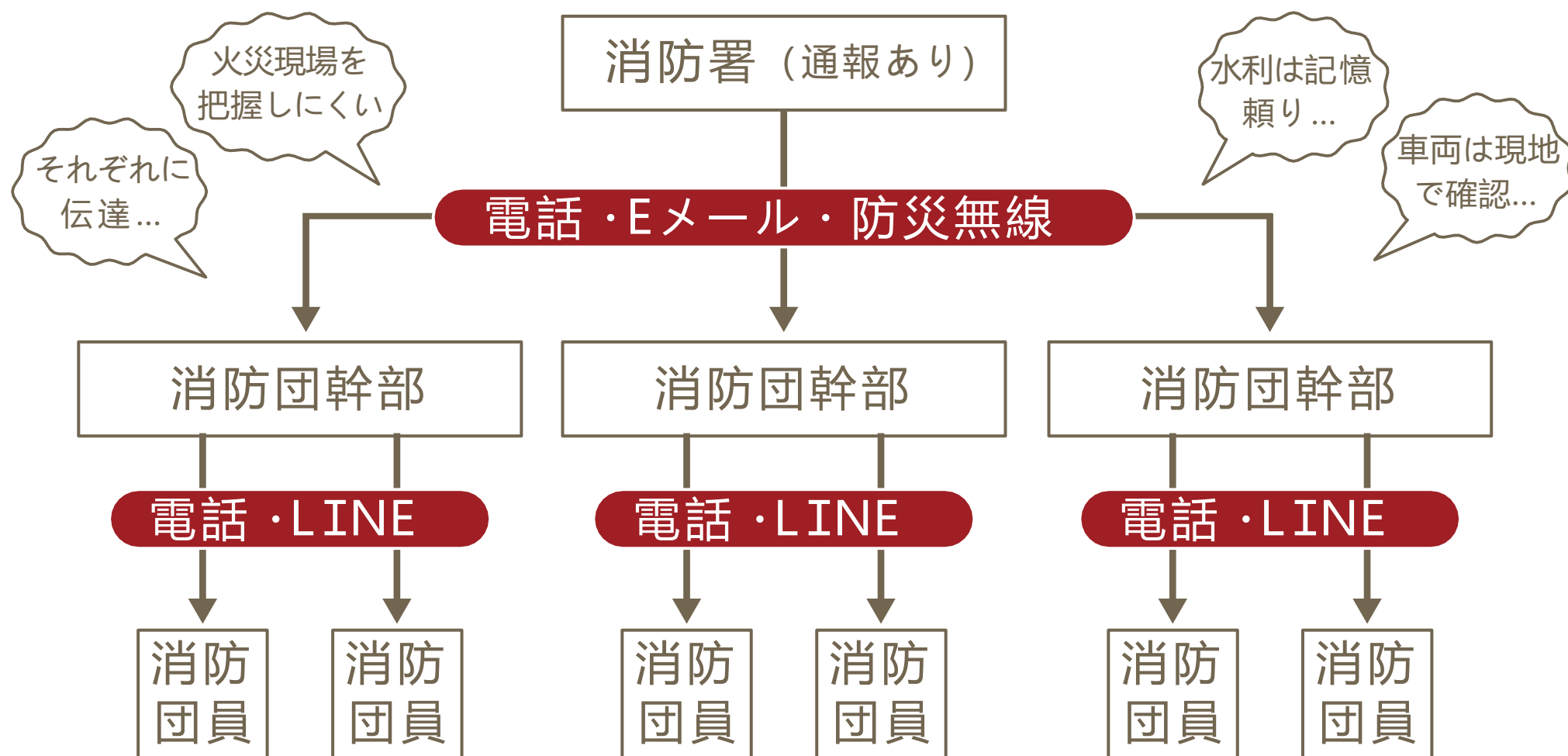
出動状況
共有

どれかひとつでも欠けると、活動の遅れにつながる

緊急時に全ての情報が
ひとつのアプリで把握できることが大事

慌てやすい火災発生時の複雑な連絡手段

連絡体制の一例



全団員一斉通知により迅速な連携をサポート

S.A.F.E. 導入後



消火活動の際に水をどこから得るか 水利・消防車両の位置を知ることが重要！



消火栓



防火水槽



消防車両



SAFE



これらの機能により、
どこにいても、瞬時に
最適な行動が取れます！

消防本部などからの火災連絡を
S.A.F.E.アプリが受け、
各団員のスマホへ火災情報などを
一斉送信いたします。

消防団は
地域の
防災資産

その価値を、その行動力を、
S.A.F.E.で最大化できる！



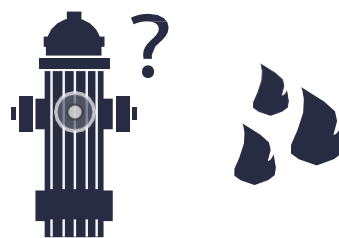
導入の効果

人災を防止



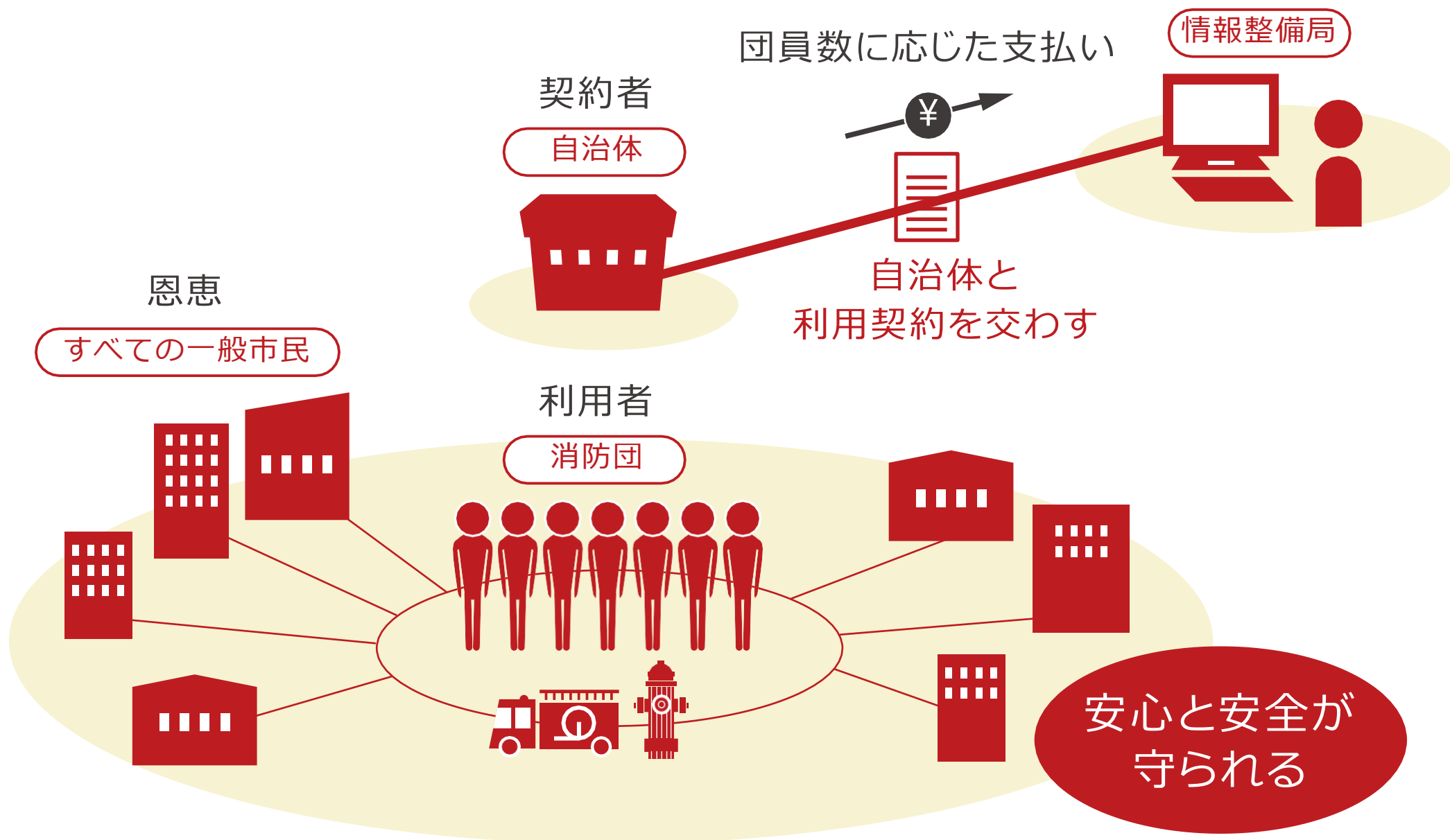
須賀川市で火災が発生。「S.A.F.E.」の通知で近所に住む団員がいち早く現場に到着。家人が消火活動をしていたが、すでに燃え広がっており危険な状態であった為に団員が法被を被せ救出した。

情報の共有



全団員が情報を共有できることにより、出動要請がかかっていない消防団の班が自発的に出動し、火災現場から1 Km以上離れた水利のホース中継を行い、火災に対応した。

ビジネスモデル



沿革

■ S.A.F.E.開発の経過

- 2015年 Wiz国際情報工科自動車大学校と共同開発の構想を開始
- 2016年 同校と弊社の共同開発でプロトタイプを開発
- 2017年 弊社単独で改良を重ね、andoroid版とiOS版を開発
- 2018年 福島県経営革新計画の承認を受ける
- 2019年 ふくしま復興塾(第6期)にて準グランプリ受賞
復興庁主催「新しい東北」復興ビジネスコンテスト 優秀賞
- 2020年 総務省主催 ICT地域活性化大賞 大賞/総務大臣賞
特許取得 火災情報システム 特許第6675723号
東北グロースアクセラレータープログラム 採択
地域イノベーションラボこおりやま 採択 ほか

■導入実績

- 2018年 福島県 須賀川市
- 2019年 福島県 古殿町
- 2020年 福島県 富岡町、磐梯町、西郷村
- 2021年 福島県 郡山市、南会津町、会津美里町、小野町、中島村、新地町*、田村市*

今後の展開

消防団は

改良

<追加機能>

出動報告の機能
災害現場の可視化

最大化するために

推進

<他社サービスとの連携>

災害支援BOXとの機能連携
水位計との機能連携



活用した

地域防災力の
向上に貢献

防災に積極的な
魅力ある街づくりに
貢献